



環境省

地域循環共生圏づくり支援セミナー

2025年1月27日

環境省中部地方環境事務所



地球が直面する「3つの危機」

気候変動

- ・2023年世界や日本の年平均気温が観測史上最高(地球沸騰化)

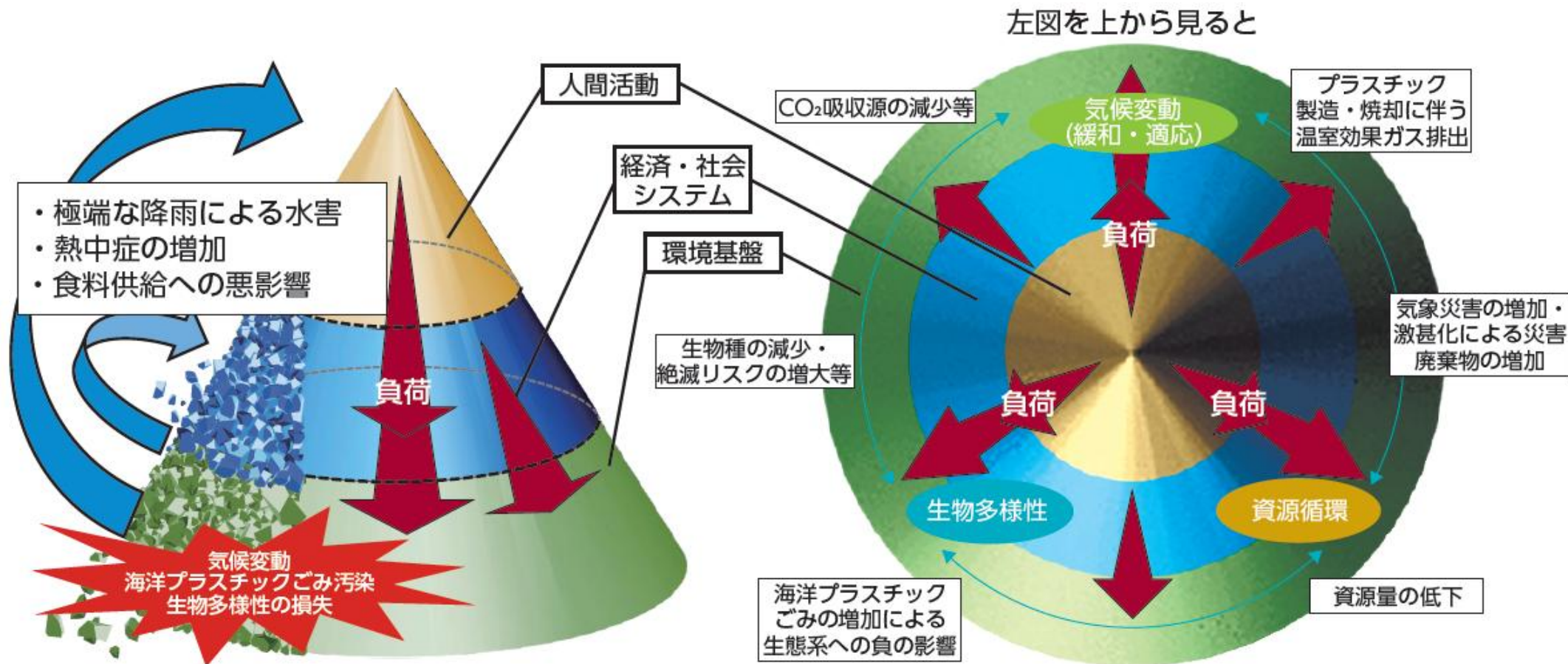
生物多様性の損失

- ・第6の大量絶滅時代(人間活動に起因、過去の大絶滅より絶滅速度が速い)

汚染

- ・世界の排水の80%は未処理のまま放出

その原因は、人間生活、経済・社会 システム



「量的拡大」「集約化」「均一化」することで効率的な経済活動を可能とする成功モデルを生み出す前提で設計された旧来のシステム

からの転換

地域の課題は？

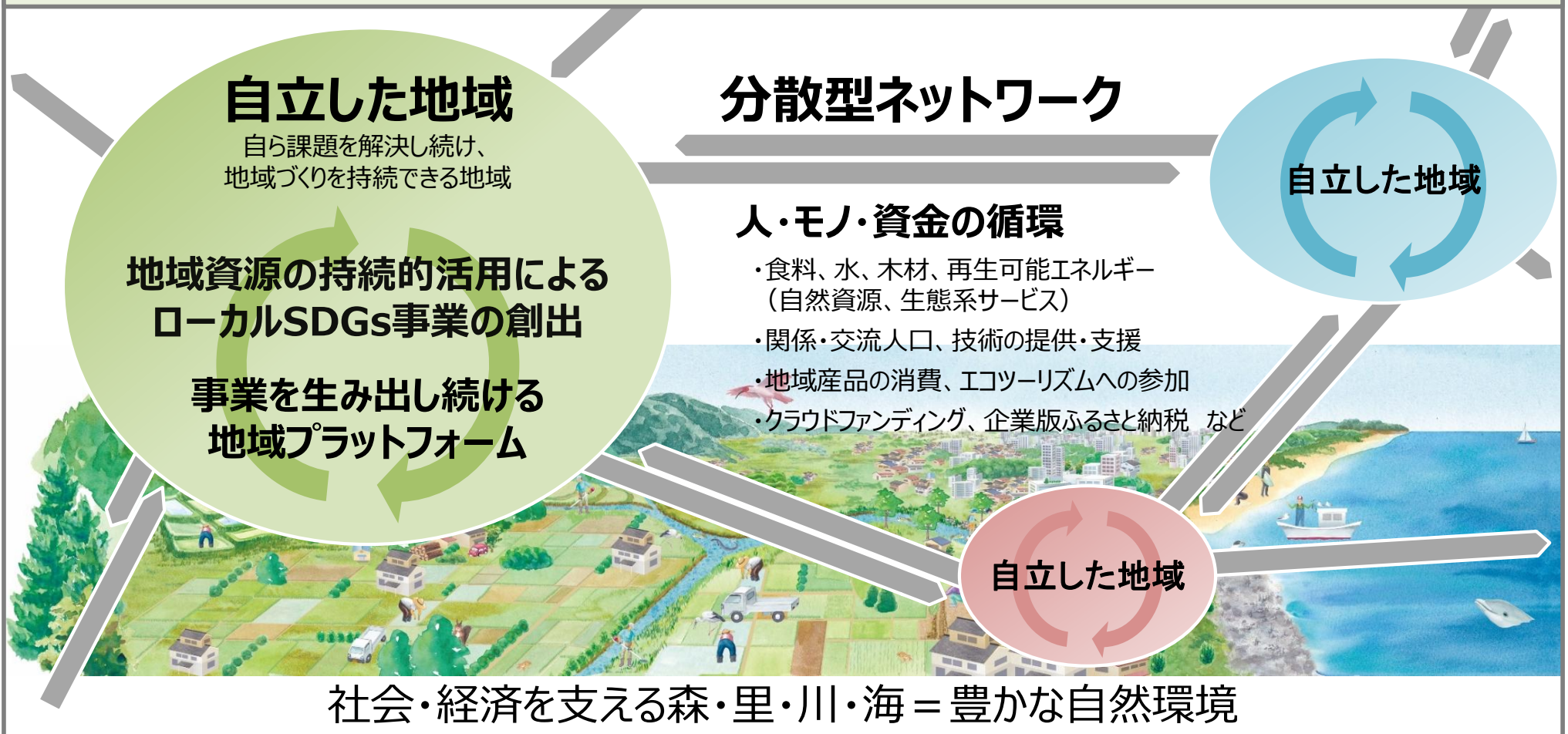


地域の資源は？



地域循環共生圏 = 自立・分散型の持続可能な社会

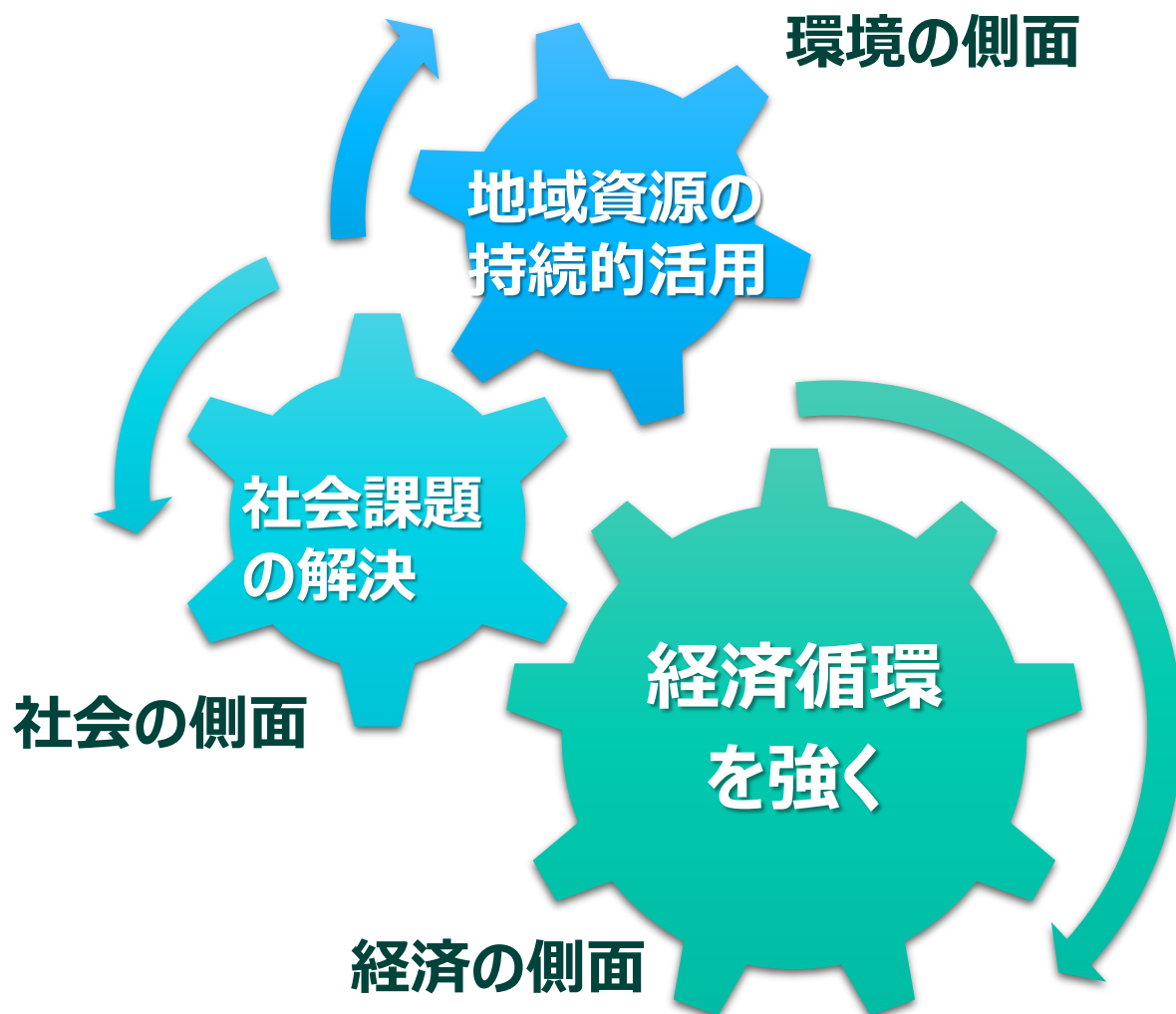
地域の主体性:オーナーシップ 地域内外との協働:パートナーシップ 環境・社会・経済課題の同時解決



・ **地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業**を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくとともに、地域の個性を活かして**地域同士が支え合うネットワークを形成**する「自立・分散型社会」を示す考え方。
・ 私たちの暮らしが、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を含めて地上資源を主体として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提。

地域を元気にする？

カギは、「ローカルSDGs事業」を地域でたくさん生み出すこと



環境・経済・社会を
統合的に良くする
事業・ビジネス

= ローカルSDGs事業

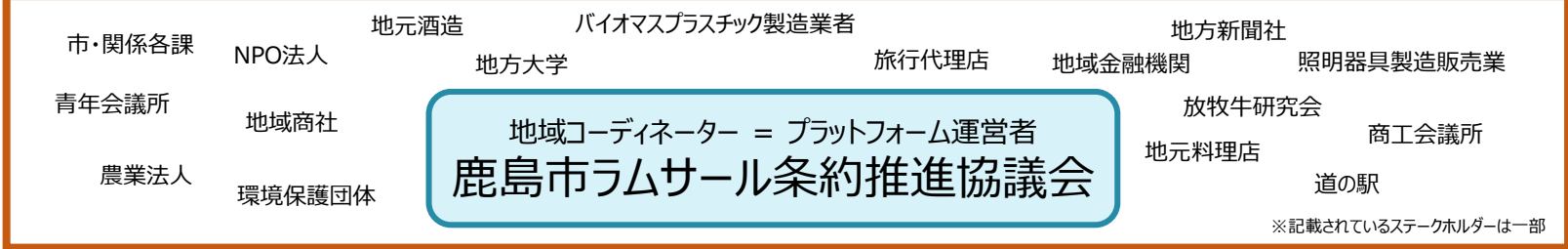


たくさんのローカルSDGs
事業により、地域づくりを
持続的に行っている地域

= 地域循環共生圏

鹿島市ラムサール条約推進協議会（佐賀県鹿島市内）

形成された地域プラットフォーム：ステークホルダー 80 団体



成果

創出した
ローカル
SDGs
事業の数

23



ラムサールブランド商品の開発・販売

- ラムサール条約湿地である肥前鹿島干潟の保全に寄与する商品に対して専用シールを貼付。当該シールを事業者に買い取ってもらうことで、商品のブランド化と、商品売上げの一部が協議会の設置する基金に還元される仕組みを構築
- 基金は干潟の保全活動に活用しており、累計100万円を突破
- ラムサールブランド商品は主に、干潟に隣接している道の駅鹿島で販売
- 商品の一部は、東京ソラマチで開催されたSDGs関連ポップアップショップでも販売



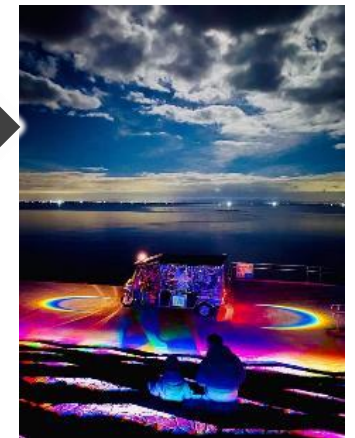
酒蔵ツーリズムにおける脱炭素化

- 肥前浜宿には酒蔵が多く、イベント時には全国から8万人以上の観光客が来訪するが、試飲用のプラスチックカップの大量廃棄が課題
- そこで、米等の国産バイオマス資源を活用して作られるプラスチック樹脂素材により試飲用プラスチックカップを製作し、酒蔵ツーリズムにおける脱炭素化を推進
- 同プラスチック樹脂素材は、肥前鹿島干潟のゴミ拾い活動時のゴミ袋としても活用予定



グリーンインフラ日本酒の開発・販売

- 鹿島市山間部の棚田は、土砂崩れを防ぐグリーンインフラ(GI)として機能しており、干潟への土砂流入による環境悪化を防いでいるが、耕作放棄が進んでいる
- このため、棚田で栽培した米を地元の酒蔵が買い取って醸造し、「グリーンインフラ日本酒」として販売。この際、地銀が設置した地域商社を介して販路拡大し、販売開始約1月で約3000本を販売
- 酒粕等の廃棄物は、耕作放棄地で放牧している経産牛のエコフィードへの活用、酒蔵ツーリズムで使用するプラスチックカップの材料として使用



カモの食害対策 × エコツアー

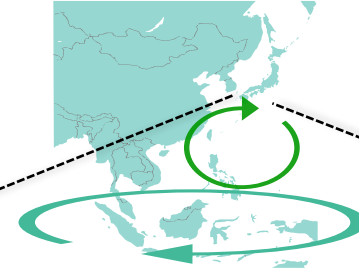
- 干潟ではノリ養殖が盛んだが、カモによる食害のため、干潟の保全に対する漁師の理解・協力が得られにくいことが課題
- LEDによる野鳥の誘導技術を持つ企業と連携し、カモを干潟から追い払いつつライトアップし、ナイトツーリズムのコンテンツを生成。旅行会社と連携してモニターツアーを開催

**Think Globally
Act Locally**

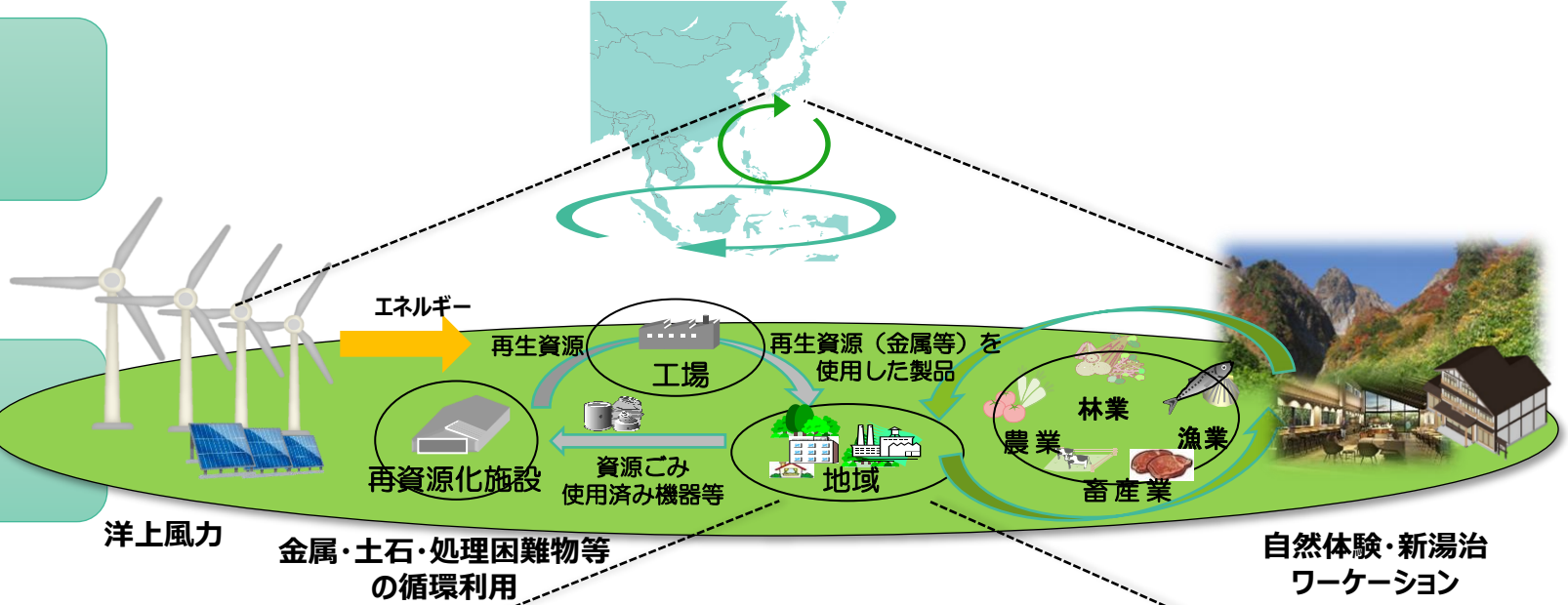
地球規模で考え 地域で行動

まち、地域、全国、世界、様々な範囲で地域資源が循環する

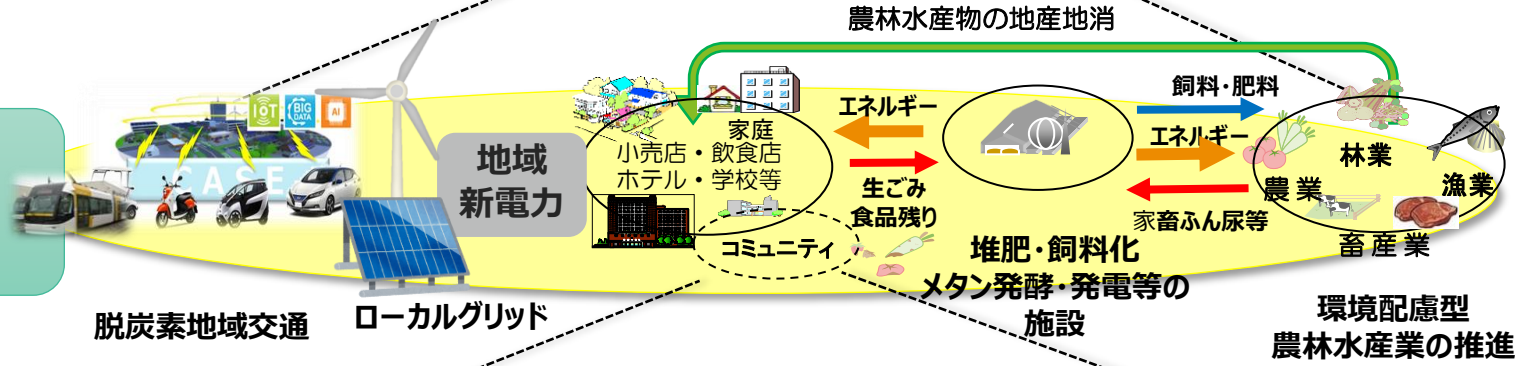
国際



ブロック内・国内



地域 (市町村・流域)



コミュニティ (集落・学区)



